



■全世界で愛用されている日本の代表的顕微鏡

# オリンパス

## 世界市場に雄飛する！

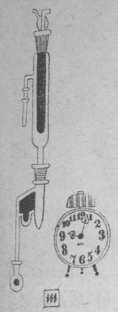
日本の光学製品／特にオリンパスの顕微鏡は全世界に多くのご愛用者をもっています。品質・性質・価格の三者がマッチして使い易さに中心をおいた設計だからです。アフターサービスも完璧で、有名大学・病院研究所などでご採用いただいています。

■生物顕微鏡 ■双眼実体顕微鏡 ■金属顕微鏡 ■眼底カメラ ■ガストロカメラ ■光学測定器 ■手術用顕微鏡 ■カメラ ■万能投影器 各種 東京 / 渋谷区幡ヶ谷 オリンパス光学工業株式会社



# 波濤にくれた13年

— 南鳥島の気象観測おわる —



〈座談会〉 淵本 一 今里 能 横山 知己 松原 映治

本誌 南鳥島での日本の気象観測の契約が切れて、淵本課長がこんど一切の業務をアメリカ軍に引渡して全部引揚げてこられた。そのへんの事情から……。

淵本 昭和26年以来1年契約で南鳥島（マークス）を運営することになっていたんですが、いままで、毎年更新されて12年5カ月、今年の6月30日のグリニジ時で24・00Z時に契約が切れて引揚げるということになったんです。13年に近い間の仕事をしたためにいろいろ日本の物資が残っている。それを全部引揚げてくる仕事を私が責任者として命ぜられて行ってきたわけです。

だいたい向うで観測しておりましたのは36人ですが、係長以上の責任者を残しまして、こちらから連れて行った荷造りの人夫6人と医者、それに私と松原君の2人で1週間ばかりの間に荷造りをしまして、引揚げたわけです。

まだ少し荷役が残っておりますが、これはその後、米軍機と空輸便で全部持ってこれるように処置しました。向うでは観測所長といわず観測班長というんですが、横山氏が班長として6月25日から重要なものを荷造りしておりましたから、われわれがやったのは観測が終ってからこの部門だけを造って持ってきたわけです。

本誌 アメリカの観測を引継ぐ人たちも行って事務引継ぎをなされた

わけですか。

横山 25日と28日の2回にわたって8人の観測員がまいりましたが、その前に建設で2人いたんです。

淵本 気象事業として一番心配なのは観測の切れ目ができるということなんです。気象事業は重大なことですから、その切れ目がないようにしたいというので、前から気象庁長官以下すべてが心配していたんです。ところが、アメリカのウェザー・ビューロー（気象局）が引継ぐことがだいたいわかったもんですから安心したわけです。私の方は6月30日の24時で終って、向うが7月1日の00時から観測を始めております。

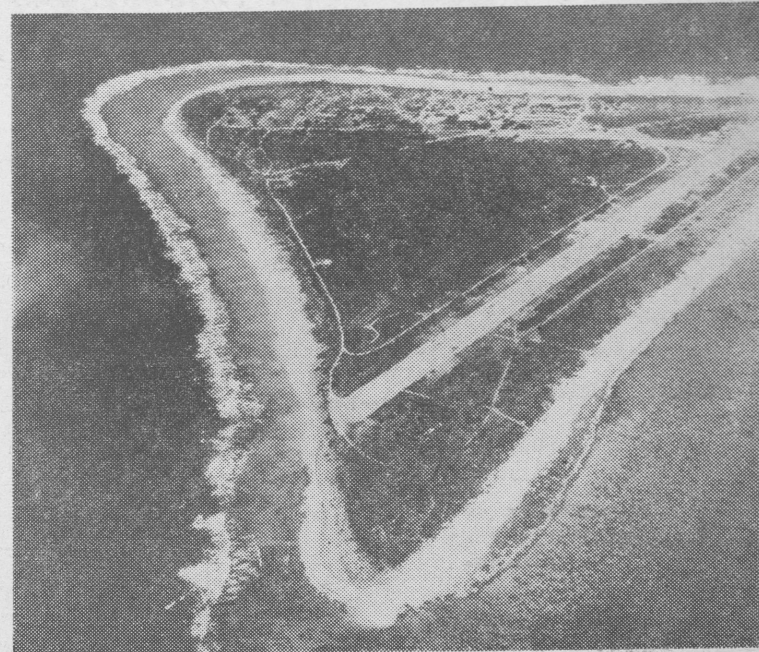
非常に人間が少ないんですけども、われわれは、13人ほどでやったんですが、向うは8人です。勤務時

間を聞いてみますと、向うは週64時間働くんです。非常に激務のようにみえますけれども、これはサラリーがまるっきり違っていて、年収は500余万円ほどでしょう。1万4,000円ですか。

本誌 淵本さんの方は(笑い)。

淵本 われわれの方は輸送船から食料、機械、人間、一切合財を含めて1年間の運営費が26万円なんです。ということは8千何百万ぐらいの金です。まるでケタが違うわけです。もっとも向うは南極と同じようで、1年間働かされるわけですが……。6カ月勤務すると2週間休暇だそうですけども、それでやろうということになりました。

本誌 向うがこんど契約を更新しないで打切ったという理由はなんで



北側からみた南鳥島は1辺1.5kmの正三角形に近い。

Memories of Meteorological Observation in Marcus Is.

by Hajime Fuchimoto, Atō Imazato, Tomomi Yokoyama and Eiji Matsubara





淵本 一氏 (59歳) 気象庁離島課長。打切りとなった南鳥島観測業務拾収に当たった。



今里 能氏 (56歳) 気象庁通信参事官。1950年南鳥島観測業務再開にあたって尽力した。



松原映治氏 (60歳) 気象庁海務課勤務。海軍気象部時代の初期の南鳥島観測基地設営に奮闘した。



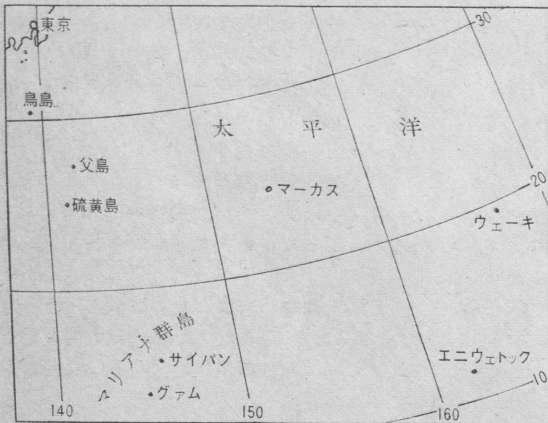
横山知己氏 (55歳) 気象庁離島課長補佐。南鳥島に5回、延32カ月勤務して名班長の名が高い。

しょうね……。

淵本 そのへんがどうもはっきりしないんですが、第1の問題は、アメリカの大きな施策の一つであるドルの海外流出防止が非常に大きいんだらうと思います。それと同時に、あそこにロランCという非常に正確な航空標識を建てるといので、この機械の内容をアメリカ人以外に知らせたくないという理由もあって、全部アメリカ人がそれを運営する。そうならば気象観測は日本人にやらせるというのをやめて、アメリカ人だけでやった方がいいんじゃないかということも考えられますね。ソロバンをはじけば明らかに日本にやりました方がとくなんですけどね……。日本の領土であってもそうになっています。沖縄みたいなわけですよ。

本誌 残してきた施設というようなもの。

淵本 全部破壊されます。島のまん中の8割は小さいジャングルだっ



太平洋上のマーカス(南鳥島)および鳥島。

たんです。そこに生えているモンバというものが植物学上どういうものか知りませんが、それも全部根こそぎ切りました。

キザない方なんですけれども、われわれはあそこを「エメラルドの花台、だとか、欠けたダイヤモンド」という表現をしたんですけれども、それほどきれいだった。

濃紺の南方特有の海に、200mの幅を持ったリーフ(環礁)で囲まれて、そのリーフの中はなんといいですかなあ、薄緑がかったいい色ですね、そしてその内側はリーフのサンゴが粉になって銀白色に輝いた砂浜があって、その中に常緑のモンバやババイヤ、ヤシの林があり、標高の最高が9mぐらいしかないマナイトみたいな花台ですね。そういうきれいな島だったんです。それを全部いま削ってしまったんですから、ガイ骨の島のような感じです。今度の建設責任者のスミス海軍中尉にもよくその話をしましたら、いずれヤシを植えかえて人工のパラダイスにするとは聞いておりましたけれども、いまのところはひどいもんです。

本誌 そういう平べったいものにしたら船の甲板みたいなもので、昨年、の台風22号みたいなものが来れば反対側に波が通り

抜けてしまうんじゃないですか。

淵本 そのこともスミス海軍中尉によく話したんです。台風の場合は別としても、ああいいうジャングルが高潮の襲ってくるのをとても防いでいたんだ、こんどはそれがいないから一気に来るだろうということをよくいっておきましたよ。

### 台風観測の第一線

本誌 南鳥島の気象観測の重要性、日本がやっている場合と米軍がやる場合の違いとか、あそこの島での観測が日本の気象の予報なんかには絶対に必要なんだろうけれども……。

今里 われわれの言葉でスバセイデアといっていますけれども、南太平洋もあの辺は、船も航空機も通らず、非常に気象資料が少ない地域なんです。その上あそこでは高層気象のゾンデの観測をやっておりました。いま気象庁では高層気象の観測を電子計算機を使ってやっておりますが、予報値の24時間先と36時間先の天気図を作るには、地上の観測だけではできないので、ゾンデによる高層のデータが必要なんです。それがあのへんのウェーキ島からハワイに行く途中はなにもありませんで、一番必要なところなんです。つまりあそこが沈まない定点観測船だったわけですね。そういう点で非常に重要だったし、天気はもちろん西の方から移って来るんですが、東の方にある高圧部とか低圧部とかによっ

て、西から移ってくるのが早くくるか、遅くなるか、どっちの方向に行くかという方向が違ってきますんで、非常に重要なんです。あれはWMO(世界気象機構)という世界中の気象観測のネットワークがあっという間いろいろ決めるわけですが、その中の一つに指定された点になっているわけです。

淵本 鳥島はもう一つジェット気流の冬の南限になり、マーカスは夏の南限になります。航空機の経済運航ということからいけば、ジェット気流に乗るか、さからうかということで大問題になるが、その点から考えてもあそこの観測は確かに有効だと思いますね。そればかりでなくて、この付近の海上は台風の発達あるいは豆台風の発生地でもありますから、その点非常に重要だろうと思えますが……。

本誌 どんな陣容で観測されたのですか、設備は……。

淵本 観測関係の勤務者は、気象観測5人、高層観測10人、無線関係6人、電機関係7人の編成です。ここが数少ない観測点の一つであり、航空路上で非常に資料のほしいところにあるわけです。もちろんアメリカの軍目的もあるのですが、日本側としても航空機や漁船にも重要なところなのです。高層観測には320kcの周波数で出力は1.5kWの設備でした。発電機は予備も含めて3台で、電灯などにも使っています。地上観測は3時間ごとに1日8回、高層は9時と21時の1日2回の観測です。この観測値は合計1日10回の定時発信で、本庁通報課へ送ってきます。

今里 気象観測のほかにはビーコン業務もやった。ホーミング・ビーコンといって1秒の休みもなく電波を出して、島の方角はこちだということをあらゆる航空機や船舶に知らせる。日米間の航空路や航路には非常に貢献したのです。日航機は島の5kmばかり北を通っていましたね。

横山 軍用機はあそこの上を通った。時には不時着して修理したりということもあります。滑走路は1,500mほどでしたから、DC4くらいの大機でも発着できますからね。



リーフに砕ける白い波と緑のモンバが美しく調和する東海岸。

### 空からのプレゼント

今里 それで非常に役に立ってあったが、これもそのまま引続いて、アメリカのコストガード(沿岸警備隊)が実施しています。クリスマスなんかにはそういう飛行機がいろいろなプレゼントを落してくれたりした。アメリカの雑誌とかチョコレートとか……。

淵本 ところがその航空機から物を落すのがだんだんやかましくなっていて、あとでは落さなくなりました。最近はないですね。

横山 この前プレゼントを落してくれたのは、ちょうど不時着して、食糧も持っていないというから、こういうものしかないがとって日本食を出してやって、いろいろと世話をしあげた。するとお礼にドルを置いて行くという。ドルをもらっても使えるわけじゃないし、結構ですといった。そして、好意があったら今度通るとき、タバコが切れそうだから落してくださいといったのです。実は補給のときは何万本も持っているが、計算間違いで1人1日10本平均しかない。20本平均あればいいのだが、たらんというわけです。故障を直して、羽田へ向けて飛立ちましたが、折返して飛んでまいりました。時間がなかったから羽田付近のタバコ屋へ寄ってかき集め、航空路は少し北へ寄っているのだが

わざわざ回って来て落してくれた。ありがたかったね。10本ぐらいずつ分けたが、ないときの10本だから本当にうれしかった。

今里 飛行場の保守も気象観測員の責任だった。暑いところだから草がいっぱい生える。それを滑走路をちゃんと整備するのは大変だ。われわれとしては病人などの万一のときには飛行機に着陸してもらわなければならないのです。滑走路といっても長さ1,500mの幅60mもある。しかもマーカーライト(滑走路標識灯)が滑走路の両側にあつてその保守も大変でした。

横山 台風22号でやられた以外は1回も消したことはない。

今里 難破漁船を助けたり、人命救助したりしたこといろいろある。

日本人の通性として、いったん引受けた以上徹底的にやるということで、気象観測は1回も欠けることなしに観測結果を内地に3時間ごとに通報したが、障害は全然なかった。ビーコンをストップしたということも、保守のためにちょっと止めたことはあったが、飛行機の障害になるような止め方をしたことは1回もない。

淵本 台風22号の高潮のときは田口君が班長だったが、幸大丸を助けて、朝日新聞社の「明るい社会賞」をもらった。

また、観測員はそれぞれ武芸百般に通じているみたいで何でもできま





観測班の本部（中央）と宿舎（左方）。

すから、漁船のエンジンを修理してやったり、無線機などを見てやったりも結構ありますよ。先日鳥島でなくなった桜井英男君なんかその一例ですけど、ほんとにみんなよくやりましたね。

## 猛台風下の観測

今里 気象観測を困難な状況下で続けて来たということは高く評価されているんじゃないかと思う。

淵本 台風が近づくと、普通内地では300km以内に入らないと毎時観測をやらないが、マーカスと鳥島のふたつは特別に500kmからやる。天気図を書いていて近づくのがわかるから、全員に指示を出し、荒天準備をやり、機械の再調査と手入れをする。食糧も天災から確保しなければならぬ。来たときは全員が観測なり他の任務をもつので、その間本場の戦争と同じです。

今里 暴風雨がくるとものすごい塩害を受ける。そのために電気回路が危険な状態になり、観測器材が潮風でさびる。その保守も大変だ。内地の測候所と違って非常に苦労だったと思うのです。

淵本 金物のさび方が非常にひどい。ピーコンを出すアンテナは、35mくらいの高さのヘキサポールという木製ブロックで固めたポールだが、それを全部ワイヤーで引張

っている。このワイヤーはマッチ軸くらいの太さの鉄線を15~20本くらいより合せて、親指ぐらいの大きさのものにして、それを亜鉛メッキしてあるが、この程度のものだと、船でも10年ぐらいいはちます。それが南鳥島だと大体2年半でくさってしまうのです。従って気象観測に使う測器類などの被害というのは非常に多い。台風のとときなど非常な神経を使います。

台風の来たときには話を聞くと、ちょうど200mの幅の環礁が一種の防波堤になるが、波が上がってくるとタライの底にいるようで、そのうね波しぶきが20m以上も吹上がって、そのものすごさというか、不安さはたとえようもない。

本誌 すばらしい写真がとれるでしょうね。

横山 冗談じゃない。しぶきで何も見えません。といっても写真を撮っておいたらよかったんですが、とても撮影することまで頭がまわらないのです。観測を続けて、電報を打つというところでせいっぱいだったから……。

今里 マーカス島の経営全体を通じて記録にとめておかなければならぬことは、25年の11月6日に調査団が横須賀を出発してから、マーカス島で観測業務を始めたのが26年の2月1日です。その間2カ月余しかありません。太平洋の真中の島で、たった2カ月で準備をしてしまった。これ

はアメリカ軍の強い要請があったといえどもそれまでだが、短時日にあらゆる資材を集めねばならない。通信計も、電気機械類でも正月をはさんで必死の努力を続けた。当時の部長だった三浦さんといま新潟気象台長の中田さんが中心でしたが、発電機など東京中どこへ行ったって発注して2カ月でできっこない。どうしたかという、東京や周辺の近県を走りまわって、戦争中に海軍が発注して完成間際に終戦になった機材が、川口市の電気工場にころがっているのをやっと捜し出した。それを3台持って行きました。いまの常識からいったら1年以上かかるだろう。

横山 ロランCだって半年以上やっているでしょう。いまは一応施設は終わったが、当時は仮だから窓ワクはない、何はないで、宿舎もテントで、中のベッドは板敷きで痛くて眠れないという。

今里 そのときつくづく感じたのは、やろうと思えばできるのだなあということです。普通の常識ではできないことです。11月23日に横須賀に帰って来て、2月1日から観測通報開始ということは、環境や条件が異常であったにしてもよくやったと思ってます。

横山 船も資材を満載して行った。

淵本 あどときは黒潮丸でしたね。積荷が多すぎて、はじめから10度近く傾いていた。

横山 ハッチの中がいっぱいで、甲板の上まで積んでいた。

淵本 それを調節するヒマもないくらいでした。無理したね。

## 観測再開のころ

本誌 新聞によりますと、南鳥島の観測員が十何年観測していた思い出に、観測10年史を作って記念しようという記事が出ておりましたけれど……。

淵本 本年9月までに立派なものをまとめることにしています。それにしても今里さんから創設当時の話を承りたいものですね。

今里 たしかアメリカの海兵隊が

いたのは昭和22年までですか、20年9月2日に海兵隊が上陸して、それからずっとあそこに駐屯してました。そして22年にあの真上を台風が通ったんです。

淵本 今度島に行ってスマス中尉にも聞いて確かめたが、昭和22年というのですが、それがどうも台風経路図からみると納得がいかないんです。間違っているんじゃないかという気がするんです。

今里 真上を通ったかどうか別として、高潮でやられた。それで島全体が海水にひたってしまったから、ほうほうのていで海兵隊が一物もたずに逃げたんですよ。そのあと23、24、25年と全然無人島だったんです。そのころ私は当時の中央気象台で渉外の仕事をしていました。向うから申出があったのは25年のいつごろだったか記憶にないんですが、とにかく、海兵隊が引揚げたあと、当時のMATSの飛行機が、フィリピンの方にハワイ、ウェーキからグェゼリンを通って行ったかと思いますが……。ところがあの辺はなんにも気象情報がないので、日本の手で気象観測をやらせたらどうか、という考えがアメリカに起ったらしいんです。

当時マッカーサーのもとで2143気象隊というのが明治ビルにあった。日本の気象事業の復興を指導し援助する任務を持っていたわけですが、将校が毎日やってきて、ああしろ、こうしろという。そしてマーカス島を日本の気象台でやれというわけですよ。そのためにアメリカの軍艦を出して調査に行くから、気象台からもチームを編成して行ってくれ、くれというよりも行けという命令ですね、当時のことですから。それで私のほか6人、建設とか無線とか組織とか、担当の7人がアメリカのグレンデルというフリゲート艦に乗って25年11月6日に横須賀から出たんです。途中エンジンが故障して動かなくなったり……。

横山 ひやひやでしたね。

今里 その間に前線が通ってひどい嵐であって、夜、カイコだなみたいなところに寝ていたんですが、びしゃびしゃ音がすると思って目をさ

ましてみたら部屋の中は海水で、いろいろの物がぶかぶか浮いているんですよ。

## 海賊をとらえてみれば

本誌 海賊さわぎがあったそうですよ。

今里 7日目か8日目の昼すぎにマーカスに着いたんですが、だんだん近づいてみると、無人島であるべき島から煙が上がっていて、そばには鋼鉄船が止まっているんです。そればかりでなく、自動車が動いているんです。私たち気象台から行ったものはおもしろいと思ったんですが、アメリカ側は空軍・陸軍・海軍が行きましたから非常に緊張したわけですね。できるだけ島に近く、2kmぐらい離れているところに漂泊しました。

淵本 今は500mぐらいまで近づけます。

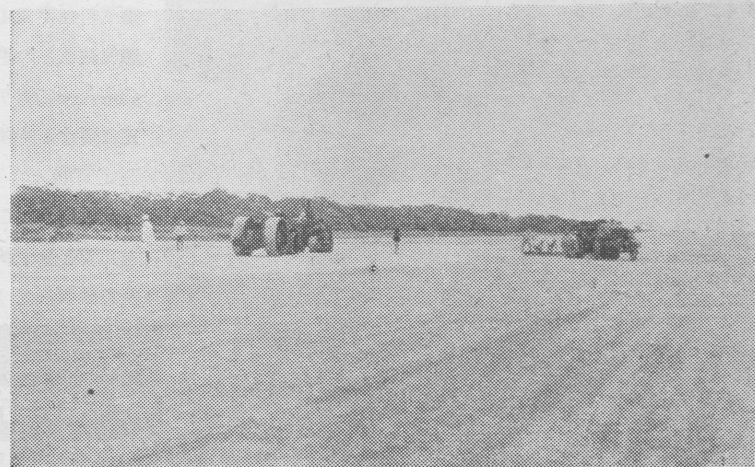
今里 遠くに停泊して、いろいろようすを探ったんですが、船の上から見たのでは一体なんだかわからないのですよ。午後3時ごろだったと思うが、まず停泊している船の方にカッターを出してようすを聞いてみるということになった。そのとき、フリゲート艦の大砲をその船に向けてるんですよ。カッターの水兵は全部銃を持ち将校はけん銃を持って十何人乗込みました。おもしろいやと思ったんですが、<sup>1</sup>日本人じゃないか、<sup>2</sup>日本の船じゃないか、と向うの連

中はてっきり日本だと思っているんです。气象台から行った連中の中から英語の話せるもの1人だけ来てくれというので、私がカッターに乗ったのですが、私は何も持っていないので困ったなと思ったんです。もし日本の船だったらボンとやらんでくれ……。

結局アメリカ人が頭目で、さきに海兵隊が残した物資をいただきにきたらしいんですね。ゴムから引取りに行くまで監視しとれなんて命令が来まして、8日目ぐらいにゴムから軍艦が来ました。

私たちはその間監視しながらも、島に上がっているいろいろ調査をしていました。ここを復興して気象事業ができるようにするには、どういうところをなおしたらよいか、どんな施設を持ってきたらよいかと調査しました。島の施設はめちゃくちゃになっていて、壁には「神に見捨てられたマーカス」なんて書いてあるんです。ずいぶんひどかったらしいんですよ。

淵本 その船は600tぐらいあるが、昭和32年ごろまではリーフに乗上げたままに残っていました。それがたびたびの台風や大波で1度リーフの中へ上がったが、しばらくしたら二つに割れて50mぐらい陸地にはいってました。それにまた波がきて二つが重なったが、また離れ、いまそれがひっくりかえってからみ合っています。ものすごいもんですよ。いずれスクラップとして処分されるのですが、まだ残っていま



22号台風で荒された滑走路の整備。



す。  
淵本 「神に見捨てられたマークス」という話がありましたけれども、今度の私たちのマークス行きの飛行機に同乗したコースト・ガードの若い隊員が、自分たちは1年間勤めるので「ロビンソン・クルーソーだ」。そういうふうな表現でアメリカ人は盛んにいっていましたね。

今里 島には日本海軍が造った飛行場の滑走路が2本あったのですが、米海軍はこの小さな島にどうしてあんなに車両を持ってきたのかと思うくらい車がいっぱいあるんですよ。トレーラーがあるし、ジープ、病院車があるしね……。

淵本 残っているのをスクラップにしても、ゆうに1,000tを越しましそうですね。

今里 ブルドーザーをもっている測候所はマークスだけですが、それもその中にあったんですよ。われわれ貧乏根性があるから、おまけにすばらしく器用な人がいまして、いろいろな部品を内地から補給してブルドーザーもジープも、なにもかも動

くようにしたんですよ。

### マークス開拓のころ

本誌 松原さんは海軍の時代にあそこに勤めておられたんですが、その当時は飛行場には飛行機が発着していたわけですか。

松原 最初から話しますと、大体あそこは南鳥島というくらいだから鳥がたくさんいたのです。

サンゴ礁に鳥がフンをするので、それが何十年、何百年、もっと長いかな、累積してリン鉱がたくさん出ました。だから島の人の仕事はリン鉱の採掘と漁労を主としていたわけです。私は昭和10年2月に文官として他の3人と行ったんですが、島のそのときの状況は、家が7戸あり、少し離れたところにカツオブシ製造所があった。そのほかに和船があったが、和船は半分ぐらい砂へ埋っていました。それから判断すると、昭和5年に、それ以前の人々のほとんどが引揚げて、6、7年ごろまで

5、6人が残ったと思うんです。そのころはカツオをとり、カツオブシ加工をやったんじゃないかと思えます。リン鉱をとるために島の全土にレールが敷いてありましたから、とりつくして大部分の人は引揚げたんだと思います。

また和船の砂のかぶり具合からみて、大きな台風が来て家もカツオブシ製造所もこわされたので引揚げたと思います。

全島がヤシとパパイヤで、ヤシは栽培したようですが、パパイヤは植えて放しです。それからモンバというのがある、ちょっと奥へはいるとジャングルだった。そこへバラックを造り、観測所を造ったわけですが、回りにヤシがいっぱいはえて、高いから風の観測ができないので、兵隊さんが上ってヤシを200本ぐらい切った。そこへ観測所を造って観測を始めたわけです。

翌年の3月ごろ大きな船にたくさんの方が乗ってきたわけですよ。飛行場を造るために関東一円から人夫を集め、数百人がやって来て、一夜

で殺ばつた空気になりました。全島のヤシを切って、今の飛行場の型とは違うかっこうに造った。西の海岸に1本1,500mぐらい、それと途中に700mのものを南側にL字型に造ったわけです。そうしたわけは、当時の日本の飛行機は馬力が弱かったから風向によって飛出すという具合に造ったわけです。そういう飛行場を造り、宿舎、発電所、電波探知機、砲台も少し造って昭和17年にひとまず工事が終わったが、全員引揚げた後の軍事施設の管理は観測所に任されたわけです。

われわれは観測していたわけですが、私たちが引揚げて、シナ事変や太平洋戦争になっていったんです。あそこは軍でいえば不沈空母ですが、そういう点から軍施設を全力をあげて強化したわけです。

私が2度目に行ったのは昭和33年でしたが、そのときはもう現在の姿に変わっていました。

### ネズミとの闘い

松原 約8カ月間いましたけれども、記憶に残っておもしろかったのはネズミと格闘したことですね。

今里 格闘はひどいな(笑い)。

松原 ネコくらいに大きいんですよ。バラックですから、事務をとっていると、ネズミが20匹ぐらい食事する部屋にきて、オハチのふたをあげて黒山になっている。毎晩そうでしたからしゃくにさわって、全員4名でホウキを持って格闘するんですが、多いときは、5、6匹とれます。壁がないからその間から逃げてしまうが、それはすごいもんです。宿舎と庁舎の間に渡り廊下があったが、月夜の晩にはネズミが出るので、下を通るとき石を落してつぶしたもんです(笑い)。

横山 殺しているんですが、最後まで殺しきれなかったですね。こんどアメリカ軍がみんな殺してしまうでしょうね。ジャングルが少なくなってしまうし、かくれる場所がなくなってしまうから。

松原 いまは食糧なんかちゃんと玄米で持って行って、精米機で白米



晴れた日は番ガサを陽よけに測風経緯儀で約80分も気球を追って観測する。

にして食べるでしょう。私たちは白米そのものを持って行ったから、虫がついて、とくとみんな浮いてしまうという始末でした。

流すと米がみな流れてしまうから、そのままたとこゴマ飯ですよ(笑い)、そんなものを食べました。

横山 海軍の補給船は何カ月目にやって来た……。

松原 6カ月にいっぺんぐらいでしょう。

淵本 米はもたんでしょう。

松原 いやもたせます。タンクに入れ、ガソリンを下の方に入れてもたせていました。

### まわりはすべて水なのだが

今里 水は……。

松原 天水です。タンクがあった。

今里 25年に行ったときさすがアメリカ人だと思ってびっくりしたのは、海水の蒸留装置がジャングルをきり開いた中にずらっと並んでいるんですね。

淵本 いまはおもしろいですよ。

真水が18tぐらいはいる鉄のタンクを船で運んでくるんですよ。それでもまだ足らんですからね。われわれの建物も採水用にしようというのであとでこわすことになって、まだ残していますけれど……。

横山 軍の力でしょね、そうい

う蒸留装置とかは。

今里 まだ戦時体制だったわけですね。

淵本 アメリカ人に昔の米海軍は海水蒸留をやったという話をしたら、こんども持ってきているといっていましたよ。

横山 持って来たが使えなくて、雨水をとって内地から持ってきた真水を大事に使っています。いまロラン関係の人は顔も洗えない。もし真水で顔を洗ったのが見つかったらすぐ首だ(笑い)。

今里 とにかくマークスというところは亜熱帯だから、雨量が非常に少ないんですよ。

淵本 年間降水量1,000mmですからね。

今里 フラクチュエーション(変化度)が大きいのでなおいけない。伊藤社長が行った29年のころはものすごく少ない年がありました。年594mmというのを覚えているが……。

淵本 フラクチュエーションのことですが、7月ごろか最もひどく、1カ月の雨量が最低77mm、多いときは1日で600mmですからね。

横山 600mmでなく400mm。

淵本 そうでしたか? とにかくそれほど変化が多いんです。

本誌 そういう小さな島で一時的な大雨が降れば……。

淵本 そのときはすごいですが、サンゴ礁ですからみんな吸込んでしまう。吸込むということからいけ

# COLEMAN

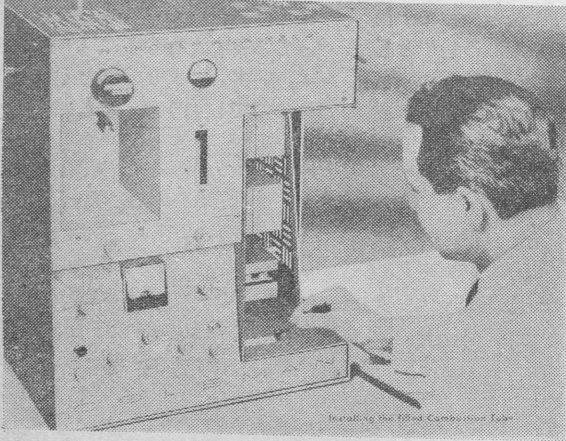
NITROGEN ANALYZER / MODEL-29

MICRO-DUMAS法完全自動化

## 世界の学界が認める 分析器械

- 試料必要量 1~10mg
- 窒素測定範囲 0.01%
- 理論値との誤差 0.15%
- 窒素容量は Digital-Conuner に依り 0.001まで読取可能
- 試料の測定に要する時間 10~15分 (1時間に 5~6 試料の測定可能)

完全に自動化されているから測定者は特別の技術  
を必要とせず試料燃焼管を挿入し指示器を示す数  
値を読取るだけでよく、又個人差も生じない。



- 分光光度計
- 蛍光光度計
- 炎光光度計
- 比濁光度計



米国ライツ社・コールマン社日本総代理店・輸入発売元

## 安部商事株式会社

本社 大阪市北区宗是町1 大阪ビル内 電話(441)3556・3836 出張所 東京都千代田区神田鎌倉町9 伊田ビル内 電話(251)6502・1797・9845



ば、例の22号台風のときなんかは、上がったときの高潮の高さから考えれば当然島が全部つかっているんです。田口竜造氏がそのときの班長でしたが、押寄せてきますと、ジャングルが一つの防波堤になって高潮の浸入速度を落して、一方入ってくる高潮をどんどん吸込んで行きます。結局は浸水面積は8割ですみましたけれども。

松原 海軍時代にはお墓のそばに大きな池があったが、その池のまわりや底がサンゴ礁ですから、海水が浸透してくるといくぶん塩分が少なから雑用には使えなかつたし、飲み水もできたので、水はあまり心配しなかつた。

今里 4人だから……。

淵本 気象台による創設時代にも日本も蒸留装置を持って行ったんですね。そしたら1日にドラムカン2本しかとれない。そんなところに人夫が百何十人も行ったのです。流血の惨事寸前というときがあったそうです。そのときの人夫たちは、11月なんです、宝島へ行くようつもりで行ったらしいが、食糧はない、水はないでしょう。一時は非常にあぶない状態になりかけたらしいですが、今年の運輸大臣賞をもらった伊藤という労務主任が、前に今里さんの話に出た俗称伊藤社長です、これが「おれを殺してからやれ」ということまでいったとかいう話ですけども……。

松原 また海軍時代の話ですが、

なにしろ補給船が来ないから野菜がないわけですよ。非常に困りましてね、土を持って行って畑を作りましたが、やっぱりサンゴ礁です。いくら土をやっても大雨が降ると全部リーフの中に土が吸込まれてしまうのです。東大に行きまして水耕法を聞きましてね、水だけで野菜ができるというわけですよ。4人で少し作っていましたが、そのうちカラシナが野生ではえていて、たくさんあるのをみつけましたから、しまいにはなんでもカラシナでした。タバコもずいぶんありました。

今里 最初の調査のときもタバコはいっぱいはえていましたよ。

淵本 そのことを調べたんですよ。そしたら水谷氏があのとき持って行って植えているんです。マーカス島にはタバコは自生していなかったようです。明治35年に秋元中尉を迎えに行った軍艦高千穂に学術調査団として大学者が行っていますね。その人の調べではっきりしたんですよ。

松原 タバコは強いですね。われわれは茎でステッキを作りました。茎は相当大きいですからね。いいステッキができましたよ。

淵本 今ごろじゃ手おくれですよ。早くいってくれたらいままでの人がミヤゲに作ったのに(笑)。

今里 ババイヤはありましたからね。

横山 野菜がわりに食わなかったですか。

松原 少し食べましたが、人が少なかつたでしょう。カラシナで間にあわした。モヤシも少し作りました。

横山 ババイヤの青いやつをとっ



レーウィン・ソンデをつるして放球する。

てきたな。

松原 つけものからおひたし、つゆの実からみんなそうだ。

今里 いまの方がよほど楽ですね。

### 地獄も住みなれば

淵本 今里さんは遠慮されているけれども、「マーカス天国」という言葉を残されたんです。

それを少しでも天国に近づけたいと思って努力したが、天国まで行かんけれども、入口の近くまで行ったときにつぶされましたから実に情けない。

今里 絶海の孤島ですからね、アメリカの連中も行くことだし、レベルの高い生活をみんなにさせようと思って……。

本誌 娯楽は何があるんですか。

淵本 釣りですよ。一番豪快でおもしろいのは……。

今里 内地のラジオははいりましたね。調査に行ったときに、最初の朝向うへ着いて、翌朝島に上陸したわけですよ。われわれ中央気象台から行った7人と、米軍が6、7人いました。

夕方になったら波が荒くなって軍艦に帰れなくなつたんです。夜になって海岸に行き、懐中電灯をつけて海の中を照らしたら、魚

が懐中電灯を目掛けてどんどんはねてくるんですよ。それを島にあった青竜刀みたいなものでとったが、ずいぶんとれましたね。そのくらい魚は豊富だった。ボラですね。食べたんですが、これは大味でまずいんですよ。

横山 いまは昔のようになぎたおすほどはないですよ。

今里 魚をとったが、料理するやり方がなかつたが、気のきいた人がいて海賊船のキャプテンのところに行つて油を持ってきてテンブラをしたが、まずくて食えなかつた。

松原 エビはいましたね。地下タビをはいて踏みつけたくらいですからね。4人ですから十分食べられましたよ。

淵本 松原さんの表現は小さいですよ(笑)。消火器くらいありましたよ。

本誌 おいしいですか。

淵本 頭の中のミソというか、あいうところはかなりおいしいが、肉はガムを食べているみたいだな。島の人はどうぞどうぞといって手をつけない。こちらは歓待されているなどと思ったら、島の人はずいことを知っているから食べないんですよ。釣りのほかに、魚をモリで突く方法があります。それから飛行場が広いからソフトボールとか、サンゴ礁を漂白してみやげにしたり、貝が非常に豊富ですよ。宝貝もあります。

いま問題になりかけているのは、あそこのベニイモはこれは日本になんないんじゃないかと思つていますね。これはボクシングの白井のマネージャーであるカーン博士がなかなかの大家なんです。こんどいっぺんきてもらうことにしておりますけれども、恐らくベニイモと、トンボと称しているイモガイのふたつは、さすがのカーン氏も持っていないと思つています。その他サザエは非常に豊富で、われわれしろうとが行きましても10個や20個はとれますよ。このごろ少なかりましたけれども……。

横山 年数によって変わってくるんですよ。

今里 ウツボはどうでしょう。

淵本 大きいですよ。

今里 ふくらはぎをかまれてひど

いケガをした。あれはさわらないことにしています。

淵本 小さいイモガイをたくさん集め、それをひもで通しますと、いまはやりのノレン、あれの貝製ができます。それとフグみたいなハリセンボンです。私の部屋にも一つありますが、肉や内臓を全部とりまして、中に風船を入れてふくらませるとフグちょうちんができる。東京あたりのように外に娯楽機関を求めなくて、自分で娯楽というものをつくらなければならないわけでしょう。それと碁、将棋、マージャンですか。

今里 フグちょうちんは気象台の人はうまいですね。実は気象観測に使うゴム風船の老化したのがあつたでしょう、あれをフグの中に入れてまんまるになるんですよ。売っているフグちょうちんはかっこうが悪いが、われわれが作るとまんまるなやつができるんですよ。

淵本 最近誤解を生ずるのでそういうものを使うことはまかりならぬということで、みんな玩具用の風船を買って行くことにした。

松原 補給船が年に4回、3カ月ごとに来るわけです。それには食料品とか器材、観測員の交代、原則は6カ月勤務ですが3カ月たちますと約半数が変わる。そのときに16mmの映写機とフィルムを3本ぐらい借りて行くわけです。ニュースと時代もの、新しいものが1本ですが、それがなよりの楽しみに待っているわけですよ。従つて着いてから出港までの間、毎晩同じものをやるわけですが、映画なんかは3カ月ぶりに見るので楽しみにしていますね。

### 目を楽します海鳥の乱舞

本誌 あの辺にやってくるのは、アホウドリでしたか、アメリカ軍が島をめちゃくちゃに平らにしてしまつたら、どこも行くところがないんじゃないですか。

淵本 前はアホウドリの羽毛で開拓民はもうけたんです。記録によりますと、1年間に20万羽以上殺しています。

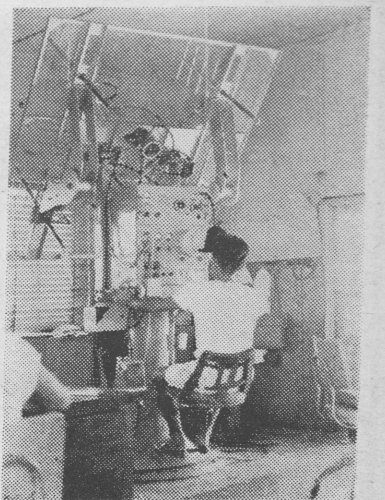
全くひどい乱獲をして、一時は繁殖地の鳥島でも姿をけしたほどです。南鳥島といたつたくらいですから、飛立つときは島が浮上がるほどいたというくらいです。それにアジサシなどがおりますが、現在はアホウドリは1羽もいません。

ただ夏の間、鳥島あたりから出たものがときどき来ます。

横山 たまに見る程度ですね。

淵本 いま住みついているのはセグロアジサシとクロアジサシの2種類が主ですね。3,000羽ぐらいです。大きさは小バトぐらいで、水鳥ですが、これは科学朝日の5月号で紹介になった。卵はピンポン玉ぐらいですが、目玉焼にするとちょっと食えるんで、一時盛んにやりました。

アジサシは、沖縄でもちょっと少ないと思いますが、あのままですと、またアホウドリと同じ二の舞です。卵をとることを一切禁止しましたので、だいぶん多くなりました。この前の藤沢君の調べでは、8月になるとシロアジサシは全部帰るはずだったんですが、こんど行きましたら、まだ卵を生んでヒナを育てているんですよ。クロアジサシの方は100羽近く越年してずっと住みついたんですが、シロアジサシが残ってヒナを育てたり、卵を盛んに生んでいたのは、あるいはこんどの工事がじゃましたのかもしれない。その他に住んでいる動物としては小さいヤモリとかハエとかカ程度です。バッタがだいぶいます。



レーウィン受信機でソンデを追う。

宇宙は諸君の手で！  
**50x天体望遠鏡**

格納木箱  
カタログ 誌名記入

F=710mm D=60mm

付属品：接眼20mm・6mm、パーローレンズ、天頂プリズム、正立プリズム、フィルター

株式会社 **キング商会**  
大阪市南区瓦屋町4-45

定価¥20,000 (送料別) その他各種



横山 だいぶ減ったですよ。木をとられたから。

### 診察は無線ドクターで

本誌 病人など出たときは大変だったでしょうね。

淵本 わたしのときは1人なくなりました。久保欣三君です。夜の高層観測をやって、途中で1度電報を打たなければならない。いつもはインターホンで通信室にいうのだが、故障していたので300m離れている通信室に行って渡して、便所の方へ行ったらしい。ところがいつまで経っても帰ってこないで迎えに行ったところ、とっくに出了たという。

ひょっとしたらと思ってさがしたところ、便所の入口のところに倒れている。後頭部を打って、脳内出血を起している。本人は意識を回復したのですが、どうして倒れたのか原因がわからない。傷は大したことなかったから安心してたところ、数時間経ったら容態が違ってきて悪

い結果になってしまった。

すぐ電報を打ちました。島で病人が出ると、鳥島も同じですが、すぐ専用線で本庁の離島課に頼むわけです。それが入ると、いつも、東大とか、医科歯科大学から補給のときに医者に行ってもらうから、そこへすぐ電話して病状をいいます。すると診断してくれるわけです。

病状があぶないとなればアメリカ軍の救急機がありまして、その部隊へ電話して、うまくいけば発病して20時間ぐらいで内地の病院に収容してもらえます。遅くても30時間かかれば入院できる。

ところが、そのときはちょっとゴタゴタがありました。そのときに6010部隊の副長さんが非常によくあっせんしてくれて、その人がいってくれて遺体を引取って無事に連れ帰ってくれた。その人はのちに東京都の善行会から表彰されました。

島にいる人は、病人が出たときもそうだが、死んだとなると、非常なショックを受ける。健康な者も病人になってしまう。眠れないせいもある

ろうけれども、死んだ者が他人でないという気持、ああいう状況になると一種の軽い精神錯乱というか、精神病のような形、いわばノイローゼというような状態になります。

本誌 病気とか、けがをしたときには無線とか電話で処置を仰いだのですが、それで実際良くなりましたか。

今里 常時は医者がいなくて、補給船が行くとき必ず医者に行ってもらう。医者に着くのを待ちもうけて盲腸の手術をして治ったという例がある。補給船は大体5日ぐらいしか停泊しないけれども、着いてすぐ手術をして、5日目の出港のときには手術を受けた男がもう歩くようになって、海岸まで見送りに出たというようなこともありました。

今里 鈴木弘夫君はアメリカ軍の飛行機で連れて行ってもらってグアム島の病院で手術をしてもらったが、非常にいちょうな扱いを受け、回復して帰って来た。当時アメリカの新聞にも報道されました。

淵本 急患だ、いかんとなるとアメ

リカ軍の飛行機はほんとによくやってくれました。

本誌 どういう病気が多かったですか。

淵本 やはり盲腸が一番多い。

横山 盲腸のときは症状からすぐわかるが、わからん病気のときは困る。症状をいえといわれてもこっちはしろうとだし……。

横山 薬はふんだんに持って行っていますから、極端にいうと、内地では助からないものも向うでは助かる……(笑い)。

淵本 もう一つ、飛行機で送る病人はけが人だが、これは骨折です。これは看護ではどうしようもない。ほうっておけば不具になってしまふ。骨折では2人帰した。

松原 死んだ場合でも、本来なら現地で骨にしたらいいのだが、看護は医師法による医者の免許がないから死亡診断書は書けない。だから、どうしても医者に現地にいてもらわねばならないと、ずいぶん奔走した。厚生省へも足を運んだ。済生会病院へ行ったときには、病院の事業部長が、病院の性格からいっても恩賜財団法人であるから、われわれの方は義務がある、そういう島には当然やるべきだということから、われわれの病院は全国組織を持っているから何とかしようといわれ、一縷の望みを持っていた。新聞広告をするし、各病院にもその旨を流したので、中には行こうという人もあった。マーカス島に行った人の話を聞くと面白いところもある。良いところだというので、行ってみようかという人も現れたが、いざ具体的に話が進むと、サラリーの問題などで折合わない。したがって、いまもって医者はいないというわけだ。

今里 「どくどくマンボウ」のような人はいないか(笑い)。

松原 マーカスにしても鳥島にしても、特殊な風土病があれば研究のためにも来るだろうが、島にはそういうものはない。求めている間はどうしても中央から離れるから技術も劣ってしまう。サラリーもうんともらえれば別だが魅力がないのだろうね。

今里 わたしは27~28年ころにマーカス島で初めて「拘禁性ノイロー



舞いあがるクロアジサシ。

ぜ」という言葉を医者から聞いた。「島の連中は拘禁性ノイローゼにかかっている」というのだ。

### どんな人が頼りになるか

本誌 34人の人が行っておられるとして、半年交代で17人を選抜しなければならぬときに、34人の組合せをヒューマン・リレーションを考えて、この男をマーカス島に送るのは不適當だというような検査はするのですか。

淵本 初めは健康診断だけだが、向うへ行ったら3カ月すると、表面的にも裸の生活だし、全然かくすとか、ネコをかぶるということは続かない。3カ月でその人間が全部わかる。悪ければ帰して、2度とやらない。整理されるわけです。

あすこでつとめられる人は多少は酒も飲まなくちゃダメですし、ユーモリストでないといつとまらないと思



伊藤者長の句碑。

う。それと思想的にはパスポートをやるときに身分調査がある。3カ月もかかって調べられる。右傾もいけない、左傾もいけない。中庸の人であること。それに健康であること。そういう意味では非常に良い人間だけがそろっているということになる。

今里 おムコさんの候補者としては最適でしょうね(笑い)。

淵本 どうしてもかくれた性格は見つけきれないから、3カ月の間に観察するよりしようがない。

大体あまり内地にいて特別にはしゃぎまわるという人はダメですね。向うへ行ったら逆にメランコリーになってしまったりする。かえって黙っている人が案外面白かったり……。

松原 そのために班長とか所長、パートのチーフは自分の職責以外に所員を何とかうまく扱って円満にやろうとすることの苦勞が大変でしたね。

今里 極端に言えば、警察権から何から持っているわけだ。

松原 ここにおられる横山さんなんか班長でした。

### 忘れ得ぬ人・伊藤社長

横山 現地では伊藤清作さんが労務主任だが、この人はとにかく気象庁にはなくてはならない人です。この人はとにかく少ない資材を有効に働くように考え、人夫を鞭撻しながら、自分でみんな作ってしまうので

\*新しい時代に躍進する三栄の計測器

遂に出た！

新製品

エビコーダー ER-101型

電子写真方式をとり入れた国産最初の画期的な直記レコーダーです

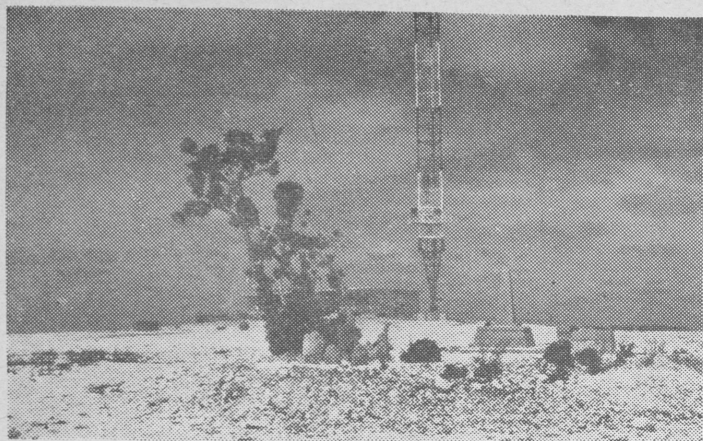
- ◇ 記録は現像、定着の手間もいらずすぐに観察できる。
- ◇ 記録はコントラストがすばらしい。
- ◇ 感光紙の価格がやすい。
- ◇ 高性能のガルバノメーターを使用しているので、高い周波数まで記録できる。

販売 三栄測器商行株式会社  
東京都新宿区柏木1-95 TEL (371) 7117-8・8114-5

製造 三栄レコーダー製造株式会社

カタログは開発係宛直接ご請求下さい。





ロラン基地と日本人の墓。

す。いまも伊藤さんがやっているが、われわれが最終的に撤去した現地の施設、用度の大半は伊藤さんが作ったものです。

今里 労務主任という公務員的な呼称だが、本当はトビの親方で、それが気象庁のレッキとした公務員になっているわけです。裸になれば素晴らしいイレスミで……。

松原 何というか、自分の島と考えているんですね。人夫なんか使わしたらずまいとか、率先して自分からやる。補給のたびに行くが、島に3カ月も残ったら家が四つ、五つ新しく建ってしまう。今度引揚げるにしてもかれが一番感傷的になりまして……。

淵本 私のところへ来て涙を流して話していたが、本当にさびしくてたまらない、やるせなさをいちばん感じているのは伊藤さんだろう。

かれは「おれはここで死ぬのだ」といって、これは引揚げの話もないころだったが、虫が知らせたのだろうか、碑のようなものを作って「わが土地と思えば労務苦にもせず」という句を刻んだ。俳句の句にもならんということをかけているが、実際句になっている。レリーフに刻んで墓場に置いて来ました。

松原 「社長」というアダ名で呼ばれていた。伊藤製作(清作)というわけだ。わたしが行ったときに、30tぐらいのトレーラートラックがあって、そのわきに「伊藤製作所」と書いてあった。

横山 「伊藤建設KK」ですよ。  
松原 万能社長だった。機械も土

木、建設も、みんなやるわけだ。ブルドーザー、トレーラーもボンコツを組立てて動かした。われわれが内地において、マーカス島が必要だと思って買えないもの、何でもみんな作ってしまった。伊藤さんでなければできないことだ。

横山 それらの作品を見てアメリカ人がびっくりしていた。俳句を刻んだレリーフの横に何と書こうか、「社長」と書いたら何だし、というわけで、結局「者長」と記した。

松原 62歳になったんですね。  
横山 やせて小さかったが、あの人がふり向くと15人ぐらいの人夫がビリッとします。

今里 人間て不思議なものだ。体の大きさではなく気魄ですね。

### 認められた観測水準

本誌 日本人の気象観測上の技術についてはアメリカ人は感心しているわけですね。

今里 そりゃ、日本人は非常に細かいですからね。

淵本 今度行ってアメリカの気象局から来ている8人に会ったら、いきなり、「自分たちは気象局からこの島に行けどいわれたときに、日本の気象観測はあまりにも立派であるから、これに負けてはいかんという訓示を受けて来た」というのです。初めはお世辞かと思っていた。私は長官のメッセージとして、「少しの欠測もなく引継がれたことは非常にうれしい。なお、ぜひこれを続けて

頂きたい」と伝えたら、「こんなにっばな成績で、これを続けていくというのは非常に苦しい。こんなにっばな成績を出して頂いたというのは一つの脅威である」というようなことまでいまして、われわれの仕事が高く評価されたことは、わたしらとしては意外なくらい……。

横山 いわれて初めて、「そんなものかなあ」と思った。わたしたちは当たり前と思っているけれども、向うがそれをいうのです。

### 長く記念される先人の墓

本誌 マーカス島には日本人の墓もあり、日本人がここを日本の領土としたことがあるのだという記念物もあるのですが、アメリカの領有下でも大切に保存されるでしょうか。

淵本 その点は、これは日本の政府がいうべきだと思うが、私個人の名で工事監督のスミス海軍中尉に文書を出したわけです。彼の返書もサイン付きでもらっています。

墓のことが一番気がかりだったので、行ったときに一番先にそれを見た。日本人の墓は開拓者のを含めてたくさんあったが、日本軍がじゃまになるからといって移し、それが全部で七つほどあった。それと阿部少将が書いて町田部隊が建てた忠魂碑、もう一つは南方地域の遺骨収集を兼ねて日本丸が持って行った、日本政府の名で書いた「戦没者の碑」。この三つが約束通りきれいに残されている。非常にうれしくて、スミス中尉に感謝した。「この墓が残る限りにおいて、貴下の名は日本人の心の中に刻まれ、感謝と感激の気持が永久に残るであろう」と。スミス中尉は、「それほどまで感謝されているのか」と喜んでた。さらに続けて、「このことはぜひ次の司令官にも申しつぐ」といっていた。わたしは、「60年間この島を日本人が守り通したのだ。そのただ一つのシンボルなのだから、ぜひお願いします」と申添えておきました。「墓の周囲はサクをめぐらし、中はきれいな花で埋める」と約束されたことはいっそううれしかった。

## 国際水準を行く 日本の印刷技術

齋藤 薩郎

### 生活にとけこむ印刷文化

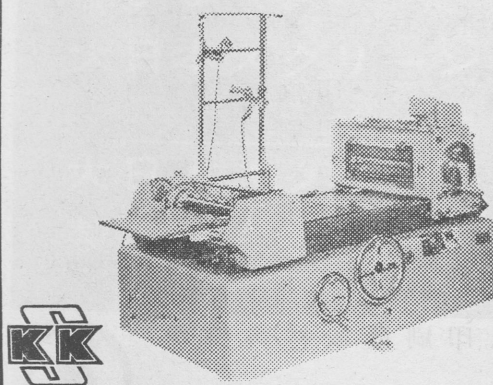
日常生活で、印刷技術より受ける恩恵は多大なものであることは、誰でもが知っている。けれども「どのように多大なものであるか」となると、かなり莫然とした認識しかもっていないことに、改めて気がつくことであろう。

日常生活で接触する文章や図案、絵画、写真は、すべて「印刷してあるのが当たり前」と、ごく概念的に認識してはいても、印刷物の一つ一つが、近代印刷技術の精魂を傾けつくした成果であることに思いいたら

ぬことは、印刷技術が文化生活の重要な一つの基盤で、空気や水が必要欠くべからざるものでありながら意識にのぼらぬと同様問題にならぬほど生活にとけ込んでいるからにはほかならない。

また、観点を変えると、印刷物の使命は、文意を忠実に伝え、絵画や図案や写真を如実に表現することが条件であって、その間に印刷技術が顔を出しては邪魔になる——例えば、文章を読むのにいちいち活字が気になるようでは困る、そこで印刷技術者は目障りにならぬ活字書体を作ることに精魂

### ターレット型 —多色凸版校正刷機— 凸版及写真製版試用



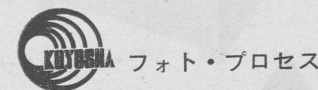
### 株式会社 金田機械製作所

本社 大阪市北区中之島三の三朝日ビル内 TEL (231) 9531  
工場 豊中市曾根東町五丁目 TEL (2) 4519  
東京出張所 東京都千代田区神田鍛冶町一 浜田精機鉄工所内  
TEL (251) 9281

### 新しい感覚・新しい方法



- 良い印刷物を創るために
- 良い版をお選び下さい
- ずばぬけた品質と独得の通信販売法で
- 定評ある当社は近く本支社共に
- 電子製版機を整備致します



### 株式会社 光陽社

大阪市東区谷町4丁目2 電話 (941) 6051~3・9748~9  
東京都新宿区代々町29 電話 (341) 5469・7249